

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成 24 年 1 月 発行 No. 32 号



ターネラウルミフォリア

新年 2012 年を迎えて ～山下義治センター所長年頭所感～

明けましておめでとうございます。皆様には、良き新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

さて、昨年は、国連が定めた「国際森林年」であり、当センターにおきましても 11 月 26 日に「2011 国際森林年記念イベント～西表島の森を歩こう～」を開催し、新本光孝琉球大学名誉教授による講演及び森林観察に数多くの方々に参加頂き、西表島の森林が未来へ残すべき素晴らしい森林であることを体感してもらいました。

また、当センターの設置目的である、NPO等が行う自然再生活動への支援、生物多様性の保全等への取り組み、教育関係者が行う森林環境教育への支援等の外、各種モニタリング調査の実施、「西表島での自然環境教育カリキュラム改訂版」の発行、移入種対策、仲間川保全利用協定の事業者が行うモニタリング調査の支援等様々な業務を行って来ました。

本年は、各種モニタリング調査データのさらなる蓄積に努めてまいります。また、森林環境教育については、学校が行う活動への支援の外、各種団体等が行う行事・活動にも積極的に支援を行うこととしています。このほか、当センターの設置目的を踏まえ、各種業務に取り組んでいきたいと考えていますので、本年もご支援・ご協力を賜われますようお願い致します。



2011 国際森林年記念イベント～西表島の森を歩こう～を開催



～西表島の森を歩こう～に参加頂いた皆さん

11月26日(土)に、国際森林年記念イベント「西表島の森を歩こう」と題して、西表島の竹富町離島振興総合センター及び西表自然休養林で開催したところ、西表島内外から約70名の参加がありました。

午前の部は、始めに「西表島の国有林における取り組み～西表森林環境保全ふれあいセンターの活動～」と題して当センターの活動報告、次に、「亜熱帯沖縄における森林資源の特徴と保全・利用 ～秘境西表島での研究から～」と題して新本光孝琉球大学名誉教授が講演され、八重山の森林の天然林資源の特徴や保全の現況、今後も森林を適切に維持することで様々な恵みを受けることが可能と話されました。一つの樹種で、食料、飼料、木材、環境保全サービス(防風、土壌保全等)等多様な利用目的・用途がある樹木をマルチパーパスツリーと呼ぶことや、西表島で見られる珍しい植物について説明されました。



新本光孝琉球大学名誉教授による講演風景

最後に、アレキサンダー・グラハム・ベル(電話の発明者)の言葉「時には踏みならされた道から離れ、森の中に入ってみなさい。そこでは、きっとあなたがこれまで見たことがない、新しい何かを見いだすに違いありません。」を紹介され講演を終わりました。

午後からは、遊歩道を歩きながら森林観察を行う「大富遊歩道コース」、カヌーを利用しマングローブ林を観察する「仲間川コース」、マヤプシキ及び干潟を観察する「マヤプシキコース」の3コースで森林観察を行いました。

参加者からは、「普段体験することが出来ない経験が出来た。今後もこのような機会があれば参加したい。」等の声が聞かれました。



大富遊歩道コースに参加の八重山農林高等学校の生徒の皆さん

マヤプシキコースに参加の皆さん



仲間川コースに参加の皆さん



浦内川と仲間川のマングローブ林のモニタリング調査を実施

観光遊覧船が運航している浦内川と仲間川において、曳き波の影響についてのマングローブ林モニタリング調査を浦内川は10月11日(火)、12日(水)に、仲間川は12月8日(木)に実施しました。両調査とも、曇天の空模様を気にしながらの作業でしたが、予定していた調査木の生育状況調査、地盤高調査、開空度撮影、そして稚樹の発生状況調査を無事終了することが出来ました。

浦内川における調査では、新たな枯損木を19本確認しましたがそのほとんどは河床の減退による倒伏枯損によるものでした。稚樹の発生状況については、2009年度の調査で5千本以上を確認しましたが、今回はその6割程度の確認に留まり年々減少傾向にあるといえます。その他の調査結果は前回調査のものと大差ないものでした。

また、本調査と平行して曳き波に関するデータ収集を目的として、GPSを用いた観光遊覧船の速度調査を実施すると共に河床に波高計・濁度計の調査機器を設置し、波高と濁度のデータ収集も実施しました。今年度のモニタリング調査報告書に分析結果を報告出来るよう取り組んでいます。

速度調査のデータ収集には、(有)浦内川観光さんの全面的なご協力を頂きました。有難うございました。

一方の仲間川の調査は、前年の調査結果とほぼ変わらないものとなりました。



浦内川での調査風景

森の巨人たち百選

「仲間川のサキシマスオウノキ」と「ウタラ川のオヒルギ」のモニタリング調査を実施

西表島の生態系を代表する植物で、森の巨人たち百選に選定されている「仲間川のサキシマスオウノキ」を11月24日(木)に、「ウタラ川のオヒルギ」を12月22日(金)に保全管理を目的としたモニタリング調査を実施しました。

サキシマスオウノキの調査では、生育状況の変化、周辺の光環境、林床植生や着生植物、枝張り等について実施しました。

調査結果をみると樹高がこれまでより1m低く計測され、周辺の光環境も大きな変化があるかと思いましたが、平均値で比較する限り、昨年同期の調査結果とほぼ同じ結果でした。その他の調査項目についても大きな変化は見られませんでした。

一方のオヒルギの調査は、周辺植生の動向、地盤高の変化、光環境の変化等について調査を実施しましたが、これまでの調査結果とほとんど変化は見られませんでした。



多くの観光客に配慮しつつ！

仲間川木道周辺のモニタリング調査を実施

11月22日(火)に、西表島の仲間川支流から西表亜熱帯樹木展示林に至る木道沿いのマングローブ林内に設置したモニタリング箇所での生育状況、地盤高及び光環境の変化についての調査を実施しました。

今年5月の調査時と比較して、新たな枯損木を1本確認しましたが、それ以外の項目については大きな変化はありませんでした。

船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施

国の天然記念物に指定されている船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を 11 月 11 日(金)にニッパヤシの成長に影響を与える地盤高の調査とニッパヤシの葉面積を算出するための小葉調査を実施し、12 月 9 日(金)に各株の一葉毎の葉高調査と光環境の変化、写真画像による定点観測、調査地周辺の塩分濃度測定等を実施しました。

地盤高の調査では、定点の地盤高調査に加え、区域全体の地形の動向を求める観点から、区域を縦横 5m 四方に区切り調査地全体の詳細な地盤高も測定しました。また、ニッパヤシの小葉調査も実施しましたが、調査対象葉が多く全ての調査を完了することが出来ず 12 月 13 日(火)に改めて調査を実施しました。

地盤高については前回調査より幾分上昇している傾向が見られますが、区域全体の地形変化や小葉調査の詳細については年次報告に記載することとしています。

また、12 月 9 日(金)の調査では、ニッパヤシの成長に大きな変化は見られませんでした。調査地周辺の塩分濃度は、今回ほとんど観測されませんでした。

八重山地方は、11 月以降天気の良い日が少なく、雨模様の日が続いており、調査を実施した当日も雨の降る中でしたので、こうした天気の動向が影響しているのかもしれません。



雨中の作業は大変です！

仲間川保全利用協定締結者が行うモニタリング調査を支援

10 月 6 日(木)、仲間川保全利用協定の締結事業者が実施するモニタリング調査の一部である砂泥の移動量調査、ヒルギ類の幼木の成長量調査についてモニタリング調査の支援を行いました。

砂泥の移動量調査では、平成 23 年 7 月の前回調査時と比較して 4 地点で土砂が堆積し、1 地点で土砂が流失していました。20 cm 以上移動していたのが 2 地点、他の 3 地点は 10 cm 以下の移動量でした。

ヒルギ類の幼木の成長量調査のうち着葉数については、前回調査時点から、5 本が増加、2 本が減少、2 本が変化なしでした。樹高については、4 本が上長成長していました。

10 月 3 日は、西表島の大原では 1 時間雨量で 53mm、上原でも 100mm の猛烈な雨を記録しました。運行事業者からは、仲間川中流部で河床が浅くなり、同じ潮位でも今までは遊覧船が航行できた箇所が現在航行に支障を来している。との言葉通り、成長量調査地点に向かう途中で、船底が河床につかえ遊覧船を下りて押す場面がありました。



砂泥の堆積状況の変化を調査



河床が浅くなった仲間川中流地点

漂流・漂着ゴミの実態調査(9～12月期)を実施

西表島における漂流・漂着ゴミの実態調査のため、南風見田、野原、ユチン、船浦（湾内、湾外）、美田良の6調査地点において定点観測による実態調査を9月1日(木)、10月7日(金)、11月10日(木)、12月7日(水)に実施しました。

9月期の美田良地区では、今まで確認されなかった浮き球、発砲スチロール、廃材等が僅かながら漂着し林内まで入り込んでいました。また、船浦湾内の調査地点に大きな発砲スチロールが漂着しマングローブ林内にも浮き球を確認出来ました。また、ユチン地区では、グンバイヒルガオに覆い尽くされ見えなかった漂着ゴミが今回、グンバイヒルガオが枯れたことにより大量の漂着ゴミが露わになっていました。

11月期の南風見田地区では、漂着ゴミは今までと同様僅かに確認されるほどでしたが、ハイカーが投棄したゴミが先月頃から多く目立つようになっていました。船浦地区(湾外)では、漂着ゴミの回収作業が行われていました。回収されたゴミの量には驚かされました。回収作業を行っていた業者に尋ねたところ順次、東部地区方面へ向けて回収作業を進めるとのことでした。

12月期の船浦地区(湾外)は、漂着ゴミの回収が完了し見違えるほどに綺麗になっていました。それとは対照的にユチン地区の漂着ゴミの量には驚きます。漁具、ペットボトル、蛍光灯等の危険物、発砲スチロール等多種多様なゴミが保安林内部にまで入り込んでいます。船浦地区(湾内)でも、発砲スチロール、浮き球等が増えているようです。



回収された漂着ゴミ(船浦地区)



ユチン地区の大量の漂着ゴミ

JICA の実施する集団研修への支援

JICA による集団研修の一環として、「持続可能な森林経営のための実施手段の強化研修」一行 13 名が 10 月 27 日(木)、28(金)に、また「地域住民の参加による多様な森林保全コース」一行 16 名が 11 月 7 日(月)、8 日(火)に来所しました。

両研修の研修生とも熱心に講義を受講して頂き、特に、11 月 7 日は講義終了時間を 1 時間あまりオーバーするほど多くの質問が出るなど受講する研修へ取り組む姿勢に感心させられました。

10 月 28 日の西表島の現地研修は、天候に恵まれ汗ばむほどの天候のなか、南風見田海岸の潮害防備保安林で自国の保安林造成方法等の説明を交え熱心に質問する研修生や、西表島の希少種などの植生について説明を求める研修生等が多く、西表島での研修は大変意義のあるものとなったようです。

11 月 8 日の西表島の現地研修では、あいにくの雨模様のなかでの研修となりましたが、大富遊歩道を歩きながら西表島の植生や仲間川のサキシマスオウノキの保全等について説明し、西



熱心に講義を聴く JICA 研修生

表島の自然について学んでもらいましたが、研修生からは当センターが西表島の生態系の保全のため、数多くのモニタリングに取り組んでいることに驚きと感嘆の声が聞かれました。

平成 23 年 10 月～12 月期におけるヒナイ川・西田川の利用状況調査の実施

ヒナイ川の利用状況調査を 10 月 21 日(金)、11 月 17 日(木)と 12 月 14 日(水)に、西田川を 10 月 18 日(火)と 12 月 14 日(水)にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川は、10 月期、16 組(ガイド含め 55 名)、11 月期、4 組(ガイド含め 11 名)、12 月期、11 組(ガイド含め 79 名)の利用状況でした。

一方、西田川は、10 月期、2 組(ガイド含め 9 名)、12 月期、1 組(ガイド含め 7 名)でした。

どちらも昨年度同期と大きな変化は生じていませんが、ヒナイ川においては、例年 12 月期は修学旅行生の利用が多く、今回も同じ傾向が見られました。



サンガラの滝をバックに！

西表島の植物

ハテルマギリ

学名：*Guettarda speciosa*

科名：アカネ科

属名：ハテルマギリ属

分 布

琉球(八重山諸島以南)、東南アジア、インド、オーストラリア、太平洋諸島、熱帯アメリカに広く分布する。

形 態

海岸近くの低地林に生育する高さ 2～6m の常緑小高木。葉は大型の広倒卵形で、表面に艶があり、側脈が目立ち、裏面に短い軟毛がある。花の咲く時期は不規則である。果実は裂開せずそのまま海に流される



林野庁 九州森林管理局 指導普及課 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>